

「新聞に慣れ親しもう」

－新聞から社会に関心を持ち、情報を発信する－

茨木市立東奈良小学校 校長 川上 隆

1. はじめに

本校は、今年度がN I E実践の2年目である。そこで、1年目の「新聞に親しもう」から「新聞に慣れ親しもう」をテーマに活動を考えた。とは言え、活字離れの影響か新聞を取っていない家庭も結構あり、新聞を読んだり広げたりする習慣や家族で話し合う機会が少ない子どもたちは多い。そんな子どもたちにとって新聞は身近な存在ではなく、なかなか手にする機会もない。

そこで、今年度は学校予算で朝日小学生新聞・毎日小学生新聞・読売 KODOMO 新聞の3紙を購読することにした。担当者としては昨年同様、教職員へのN I E教育の発信、様々な新聞記事の配布、ワークシートの回覧を、児童・保護者へは新聞記事を活用した校長室だより（ひがしなら通心）の発行等を行った。また、4学年（2クラス）が、上記3紙を活用した「N I E学習」に、5学年（2クラス）が、提供していただいた5社（朝日・毎日・読売・日経・産経）の新聞を使った「N I E学習」に取組んだ。以下にその実践を報告する。

2. 実践の概要

*「新聞への親しみを定着させるために」

○「N I E掲示板」の設置

夏休み中、戦争に関する新聞記事を集めた。主に広島・長崎の原爆忌や終戦に関する記事であった。それを掲示板（保健室、会議室、職員室前の掲示板）に広島・長崎・終戦と分けて掲示した。夏休み中の「平和登校」もなくなり、戦争について考える「平和学習」の一助にでもなればと思い実施した。校長室だよりでも広島原爆忌でのこども代表の「平和への誓い」の記事を扱った。

これ以降、小学生新聞3紙から子どもたちに読んでほしい記事は掲示する取り組みも続けている。



< 掲示された新聞記事を読む子どもたち >

校長室だよりでは、意識して新聞の教育関係を中心として時事ニュースを取り上げるようにしている。今年度取り上げた記事は、「広島平和記念資料館」、「本校での防災研修会」、「スマホに関する記事」、「沖縄慰霊の日追悼式」、「全国学力テストの結果から」、「新聞週間」、「吉野彰さんのノーベル賞受賞」、「ローマ教皇来日 核兵器のない世界を」、「読解力低下」等である。保護者にも知らせることで、啓発と共に家庭での話題の材料になってくれればと願っている。

＊教師の「新聞力」を高めるために

○新聞記事の配布、読売ワークシート通信・よみとき新聞ワークシートの回覧

本校が購読している読売新聞は、教育関係の記事が充実しており、「学ぶ育む」や「新聞@スクール」は教職員の参考資料として印刷して配布している。また、毎週水曜日にメール配信される「読売ワークシート」と毎週木曜日にメール配信される「よみとき新聞ワークシート」（理想科学工業株式会社）は、カラー印刷して回覧し、電子ファイルでも情報提供している。その中から活用できる資料を教職員が選択し利用できるようにしており、教職員側の意識を高める取組みを続けている。

＊4学年での「N I E 学習」の取組み

1学期の国語の単元で「みんなで新聞を作ろう」を学習した。それをきっかけに「N I E 学習」をスタートした。2学期に入り、総合の時間に夏休みや運動会の思い出を新聞にまとめた。



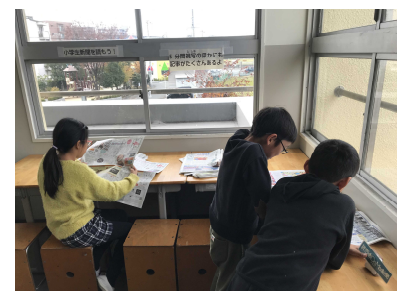
10月の遠足で行った大阪城の紹介新聞を作った後、朝日小学生新聞の方に出前授業で「新聞の作り方」を教えていただいた。その後「大阪をもっと紹介しようプロジェクト」を立ち上げ、名所4カ所を紹介する新聞作りにクラス8班で取組んだ。その成果は、市の研究授業で公開した。



新聞作りにはまった子どもたちは、茨木川の社会見学のことにも新聞にしたいと担任に申し出て、自ら新聞作りに意欲的に取組んだ。その出来映えレベルは確実にアップしていた。



4 学年の特筆すべき取組みに『視写』がある。これは小学生新聞の中から担任が記事を選び、その記事のプリントを配布し読ませた後、5 分間で記事を書き取る作業である。これを週 3 回、朝の時間や国語の授業前に取組んでいる。教室前廊下の隅に新聞コーナーも設け、興味付けにしている。



* 5 学年での「N I E 学習」の取組み

昨年度の 5 学年の取組みを参考に取組んだ。(詳しくは、2018(平成 30)年度実践報告書を参照)

○ N I E 利用計画案

2 学期に入り、9・10 月の 2 ヶ月間、前述 5 社の新聞をご提供いただき、以下の計画で進めた。

☆ 第 1 週目

・新聞を手にとってみよう。→ ひとりで新聞を見る経験をする。知らない言葉は憶測読みをする。

☆ 第 2 週目

・気になった記事を切り抜こう。→ 気になった理由を添えて、グループで発表する。

☆ 第 3・4 週目

・お気に入り新聞をつくろう。→ 役割を決める。社会報道、文化報道、運動、ニュース編集部等

☆ 第 5 週目

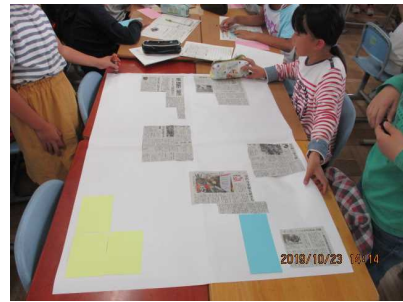
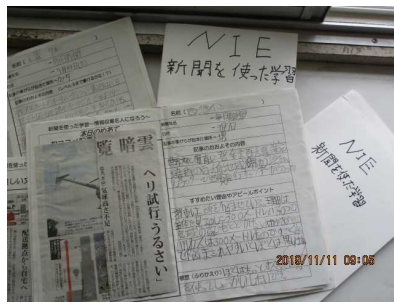
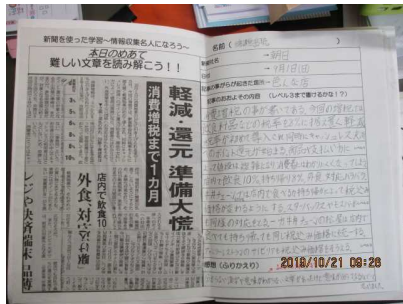
・情報を正しく読み取ろう。→ 各社の T O P 記事を見比べ、読者に伝えたい意図をつかむ。

★ 校外学習 朝日新聞本社・工場見学 → 新聞が家庭に届く過程を学ぶ。

<新聞を手に取り気になった記事をまとめ、発表する>



<グループで新聞をつくる>



3. 考察（4・5年生の感想より）

- ・新聞に興味を持つようになり、小学生新聞を家でも読むようになりました。5分間視写を45回もして、今までよりも字が丁寧に書けるようになり、字を書くスピードも速くなりました。いつの間にか新聞が好きになっていました。地震の恐ろしさや川の氾濫の怖さや火事のことを学びました。5分間視写は楽しいです。これからも続けたいし、家でもやってみたいと思いました。
- ・新聞の学習をする前は、新聞には興味がなくて文字がいっぱいで習っていない漢字があったりしてあまり読みたくないなと思っていました。だけど新聞社に行って、新聞の作りや新聞についていろんなお話を聞いて新聞のことがよくわかりました。学校で新聞を作るときに、記事を選ぶ力、読み取る力、文章力、みんなと協力する力などいろいろな力がついたと思いました。この学習を始めて、新聞が大好きになりました。もっと新聞を読んで、いろんなことが知りたいと思いました。

4. 成果と課題

子どもたちがいかに新聞を身近に感じるかは、家庭での習慣づけが第一である。しかし、新聞を購読しない家庭が多い中では、学校からの働きかけも重要になってくる。今回の取組みで、子どもたちは新聞に対して好印象を抱き始めている者が多い。よって、日常的に新聞の話題を授業に組み込むような仕掛けや教員からの意識付けが必要である。教員が新聞の面白さを伝え、授業でそのような話題を出すことが、子どもたちを社会に近づける一歩になると考える。また、学校での話題を子どもたちは家庭で保護者に話す。学校の出来事以外にも社会の出来事、話題のニュースが家庭で話されるようになれば、子どもたちの社会への関心は一気に高まるであろう。

そして、すべての教科の基本となる国語力、言語能力の育成のためにも学校がNIEの取組みを積極的に実施していく必要性を感じる。本校においては、4学年が実施している『視写』のような取組みを全学年に広げることを通して、校内研究のテーマであり本校の課題でもある「書く力の育成」を達成することが今後（3年目）の最重要課題である。